

お母さんと親子丼

藤田 清斗

「ただいま。おそくなつてごめんね。」

ぼくのお母さんは、いつもこう言いながら帰って来ます。仕事をしていておそくなつていただけから、あやまらなくてもいいのに、おなかをすかせて待っているぼくたちにいつもあやまります。

いつもおそく帰ってくるお母さんだけど、ちゃんとご飯を作ってくれます。ぼくは、お母さんが作ってくれる料理の中で親子丼が一番好きです。甘い玉子と玉ねぎが、ふわふわしゃくしゃくつとしていているからです。「親子」っていう名前もいいです。毎日親子丼でもいいのに、お母さんは、

「そんな簡単にできるものでいいの？」

と言つて作ってくれません。ぼくのたん生日のときに、親子丼がいいと言つたときは、お母さんは笑いながらいつもより多めに作ってくれて、いっぱい食べられました。

お母さんが早く帰ってきたとき、ぼくはお母さんと料理を作ります。ぼくとお母さんで料理を作るときは、だいたい玉子スープを作ります。ぼくは玉子スープが好きだし、それに玉

子をわるのが得意だからです。ほくの家では、玉子スープに玉ねぎを入れます。その玉ねぎを切るときは目が痛くなります。そのとき、お母さんがいっしょに切ってくれます。

ほくは、親子丼や玉子スープは、お母さんに似ていると思います。温かくて、甘くて、ふわふわしていて、毎日いっしょにいてもあきないからです。お母さんの親子丼を食べていると、心がほっこりしてきて、お母さんの子どもに生まれてきてよかったなと思います。お母さんに、

「親子丼おいしいよ。ありがとう。」

と言うと、お母さんはにっこり笑ってくれます。ほくは、大人になっても親子丼が大好きだと思っています。それは、お母さんのことが大好きだからです。だから、その気持ちを「ありがとう」という言葉にこめて、お母さんに伝えていきたいです。

お母さん、いつもありがとう。（大好きだよ。）